

やんちゃキッズの大冒険

1 ねらい

幼児が、様々な生活体験や自然体験を通して、意欲的に物事に取り組む姿勢や人間関係能力を育むとともに、自然体験の大好きな子供に育てる。

2 期 日

- ① 夏キャンプ : 平成30年 8月23日(木)～25日(土) 2泊3日
 (夏キャンプボランティア研修 : 平成30年 7月 7日(土)～ 8日(日) 1泊2日)
 (夏キャンプ事前説明会 : 平成30年 8月 4日(土) 日帰り)
 ② 秋キャンプ : 平成30年10月13日(土)～14日(日) 1泊2日
 ③ 冬キャンプ : 平成31年 1月26日(土)～27日(日) 1泊2日

3 対 象

幼児(年長児)

4 参加人数／募集人数／応募者数

- ① 夏キャンプ : 24名／24名／ 71名
 ② 秋キャンプ : 30名／30名／ 62名
 ③ 冬キャンプ : 29名／30名／ 69名

5 講師・スタッフ

- ① 夏キャンプ : 法人ボランティア11名 国立立山青少年自然の家職員
 ② 秋キャンプ : 法人ボランティア12名 国立立山青少年自然の家職員
 ③ 冬キャンプ : 法人ボランティア12名 国立立山青少年自然の家職員

6 夏キャンプボランティア研修

参 加 者 : 法人ボランティア11名 スタッフ : 国立立山青少年自然の家職員

	午 前	午 後	夜
7月 7日(土) 1日目	○オリエンテーション ○キャンプのコンセプト確認 ○アイスブレイク ○昼食作り	○沢&トントンの森散策 ○テント設営 ○野外炊事(夕食)	○グループタイム (危険予測と対策) ＜不動棟テント泊＞
7月 8日(日) 2日目	○野外炊事(朝食) ○大丸山登山 ○昼食(食堂)	○研修のまとめ	

7 後援・協力

富山・石川・新潟各県教育委員会 富山県国公立幼稚園・こども園長会 富山県私立幼稚園・認定こども園協会
 富山県保育士会 富山県民間保育連盟 北日本新聞社

8 日 程

①夏キャンプ

	午 前	午 後	夜
8月23日(木) 1日目	○はじめのつどい ○班活動・昼食	○沢遊び ○入浴 ○野外炊事(夕食)	○ナイトハイク、星空観察 ＜不動棟テント泊＞
8月24日(金) 2日目	○野外炊事(朝食) ○室内動物探しゲーム ○昼食	○大丸山登山 ○宝箱探しゲーム ○入浴 ○野外炊事(夕食)	○キャンドルファイアー ＜不動棟テント泊＞
8月25日(土) 3日目	○野外炊事(朝食) ○テント撤収・荷物片づけ ○自由遊び	○昼食 ○おわりのつどい	

②秋キャンプ

	午 前	午 後	夜
10月13日(土) 1日目	○はじめのつどい ○グループでふれあいタイム ○昼食	○焼き芋体験 ○夕食準備・片付け、着替え等	○シュラフ準備 ○絵本タイム ＜不動棟泊＞
10月14日(日) 2日目	○体をほぐす体操、朝食作り ○大丸山登山	○おにぎり作り(昼食)、荷物整理 ○班タイム ○おわりのつどい	

③冬キャンプ

	午 前	午 後	夜
1月26日(土) 1日目	○はじめのつどい ○グループでふれあいタイム ○昼食	○雪の遊び場作り ○ポトフ作り（夕食）	○ボンファイアー ○就寝準備 ○絵本タイム ＜エコスクール館泊＞
1月27日(日) 2日目	○ドッグサンド作り（朝食） ○雪遊び（チューブそり等） ○昼食	○班タイム ○おわりのつどい	

9 参加幼児保護者からの事後アンケート

- 「自分のことは自分です」と口癖のように言って自分からするようになった。何かをするとき失敗を心配することが多かったが、「失敗してもいいよね、やってみるわ」と挑戦することが多くなり、失敗しても泣かずに次に向かうようになった。
- 玉ねぎ、じゃがいも、人参など皮をむいたり包丁で切ったり、食べたお皿を家族の分も片づけたり、食器を洗ったりしてくれるようになった。
- モヤモヤした気持ちを表現できない時、今まではすねたり泣いたりしていたが、じっくりとそのことについて話し合っ、悔しかった、悲しかったなど気持ちを言葉で表そうとするようになった。

10 成果

- 夏キャンプでは、子供たちに3つの約束伝え、スタッフ・リーダーもそれらを共有して子供たちに意識させた。その結果、日が経つにつれ子供たちも自分たちで考えて行動するようになり、事後アンケートからも家に帰ってから継続しているという感想もあり、成果を感じられた。
- 秋キャンプは、秋らしい自然の中でダイナミックに遊び過ごすことを目的とした。その中で子供たちは何をして遊ぶか、次に何をしなければならないかを互いに話す場面が見られ、コミュニケーション能力育成の一助となった。
- 冬キャンプでは、深雪（親雪）体験、仲間意識、自立への促し（自分のことは自分ですなど）をねらいとした。学生ボランティアもこのねらいを意識して子どもたちと関わってくれたことで十分にねらいを達成することができた。また、活動副案を用意していたこともあり、降雪・積雪状況を見ながら活動を柔軟に変更・対応することができた。

11 今後の課題

- 幼児キャンプを実施する中で、ボランティアリーダーの役割は非常に大きく、その差が子供たちの「できた」に違いがでてきている。共有意識や言葉掛けなど、事前研修（夏）、細案などの事前配布資料（秋、冬）を通して子供たちへの対応能力を上げていくことが必要である。



（ 夏 ）



（ 秋 ）



（冬）